

平成31年3月1日

昭島市教育委員会 殿

学校名 昭島市立田中小学校

校長名 土屋 正登

平成31年度教育課程について（届）

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき下記の通りお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

一人一人の子供を人間として尊重し、その能力や特性を伸ばし、社会に役立ち、豊かな生き方ができる人間を育てるために、基礎・基本を徹底し、個性を生かす教育を実践する。

◎よく考える子（重点目標） ・思いやりのある子 ・たくましい子

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

「出会いの教育」を本校のモットーとし、人・文化・環境・自分自身などとの出会いを大切にしながら豊かな教育実践に努める。

ア「よく考える子」を育てるために（重点目標）

- (ア) 一人一人の児童に基礎・基本の学力を定着させるために、授業時数を適切に確保するとともに、第1学年から習熟度別や課題別の少人数指導を展開し、「昭島市立学校教育のユニバーサルデザイン」を効果的に活用して個に応じた指導の充実を図る。また、日常の学習活動との関連を図り、放課後・土曜の補習の実施を通して基礎・基本の学力の確実な定着を図る。
- (イ) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて問題解決的な学習や体験的な活動、プログラミング的思考を育成する学習活動を充実させることで、児童の「学び」への興味・関心を高め、生涯にわたり自ら学び続けようとする力を養う。
- (ウ) 教科等の指導の中で言語に対する関心や理解を深めながら、読み聞かせや朝の読書、おすすめの本の紹介などの読書活動について学校図書館を活用し思考力・判断力・表現力等の向上を図る。
- (エ) 外国語活動・国際理解教育を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を育む。
- (オ) 校内OJTの推進及び授業改善推進プランの作成を通して、各教科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、授業の質的向上をめざす。

イ「思いやりのある子」を育てるために

- (ア) 人権教育の理念に基づき、キャリア教育の実践を通して、自他の生命や人権を尊重することの大切さ、自らの権利と義務や自由と責任について理解させるとともに、全ての教育活動を通して、勤労を重んじ、児童の夢や希望を膨らませる取組の充実を図る。
- (イ) 基本的な生活習慣の定着を学校と家庭・地域が連携して図るとともに、望ましい集団活動を通して、自立心や規範意識を身に付けさせる。
- (ウ) ボランティアなどの社会奉仕体験活動、自然体験活動、勤労生産活動などの体験活動や自主的・自発的な学習を展開し、自己肯定感、自己有用感を培う。
- (エ) 特別支援学級や他学年、地域の人々との交流、小中一貫の日、幼保小連携、副籍交流、職業体験などの活動を充実させることにより、豊かな人間性や社会性を育む。

ウ「たくましい子」を育てるために

- (ア) 体育・健康に関する全体計画及び体力・運動能力調査の結果を踏まえ、「元気アップガイドブック」や体力・運動能力調査記録カードを活用し、児童が適切な運動の経験を通して体力向上を図ることができるように系統的な指導を行ったり、児童が個々の課題を克服するための支援を進めたりすることで心身ともにたくましい児童の育成を図る。
- (イ) 「心と体の学習」を、担任と養護教諭とが連携を深めながら計画的に進め、自らの生活行動や身近な生活環境へ関心を高め、心身の健康を積極的に保持増進しようとする態度を養う。
- (ウ) 食に関する指導の年間指導計画に基づき、栄養士と連携し児童集会や給食の時間に食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けさせるとともに、自然の恩恵や勤労などへの感謝の気持ちを育む。また、「アレルギー疾患対応マニュアル」に基づいた食物アレルギー事故防止の徹底を行う。

エ 上記の基本方針に沿って教育活動を進めるために、次の事項を重視する。

- (ア) 学校・家庭・地域の役割分担と連携による児童の健全育成を推進するために、学校評議員や学校関係者による学校評価を充実させ、開かれた学校づくりに生かすとともに、積極的な説明責任を果たす。
- (イ) 特別支援教育の充実のために児童の実態を把握した上で特別支援校内委員会やケース会議を行い、学校・家庭・関係諸機関などと連携し個別の教育支援計画及び個別指導計画を随時見直す。また、特別支援学級との連携を深め、個々の児童に応じたきめ細やかな指導や支援の質の向上を図る。